

馬書

蕃外書冊

			和書門
		二三四〇九	
		六三	
冊架	函	號	類

武備兵法

390

庫文閣内			
五四	二三四		和書
函	〇九		
一	八		
九	九		
架	冊	號	類

内閣文庫		
番號	和	23409
冊數		8 ( 1 )
函號	154	390

武備兵法

154-390





一

中身... 里馬... 雑地

野馬... 内仕... 陣

雑地... 野馬... 八州... 生長... 水家... 味... 象

く... 活... 言... 習... 進... 山... 丈... 水... 能... 能

併... 廿... 子... 不... 足... 別... 与... 物... 路... 与... 一... 安... 一

山... 能... 能... 仕... 人... 能

一

中身... 里馬... 正... 三... 十... 十... 二月... 廿... 六... 月... 八... 里

三... 而... 何... 矣... 至... 幸... 々... 物... 業... 兼... 人... 事... 中... 止... 又... 六... 七

八... 月... 廿... 六... 月... 八... 月... 馬... 兼... 氏... 部... 何... 馬... 或... 八... 里

不... 仕... 馬... 又... 仕... 何... 何... 也... 野... 三... 人... 一... 兼... 矣

中... 止... 中... 止



一 口平糶地之野之六に申あたる事多し野之  
 七の一に申あたる事一に申あたる事不申あたる  
 地多し申あたる事一に申あたる事野之六  
 七の二に申あたる事一に申あたる事一に申あたる  
 一 夜間之文官宗子野小太郎一に申あたる事  
 中、御願之申あたる事平股之指針より上之  
 路之申あたる事焼之申あたる事申あたる事  
 燒之申あたる事申あたる事申あたる事申あたる事  
 申あたる事申あたる事申あたる事申あたる事

一 平之申あたる事申あたる事申あたる事申あたる事

中、申あたる事文字之申あたる事申あたる事  
 申あたる事申あたる事申あたる事申あたる事  
 申あたる事申あたる事申あたる事申あたる事  
 申あたる事申あたる事申あたる事申あたる事  
 申あたる事申あたる事申あたる事申あたる事  
 申あたる事申あたる事申あたる事申あたる事

一 中華之申あたる事申あたる事申あたる事申あたる事  
 申あたる事申あたる事申あたる事申あたる事  
 申あたる事申あたる事申あたる事申あたる事  
 申あたる事申あたる事申あたる事申あたる事  
 申あたる事申あたる事申あたる事申あたる事

一 野馬之申あたる事申あたる事申あたる事申あたる事











其馬を不肖者あるの代りよめりありと云ふに  
半日程望みし山を洞中のはむり紅いけりる月  
能く久交りし中云

一 里馬野るたに父馬かけ山伏又ハ母被布取扱ひ  
存知不中ハ父母る為知りて父馬母被た七八  
九歳ハ馬被好キ馬地道躍足跳是ともは扱ひ  
互交ると用い中云或ハ父母老るともは扱ひ生  
れま約眼との燈を置富しく中云母を入下  
在下り精氣少しく力弱くハある幼ハ父母馬  
苦魚より中云

一 官馬兵軍官人等ハ馬を新く置る是ハ  
不韃地ハ中馬と用い中云

一 江南浙江福建廣東江西ハ各省ハ國家ハ  
馬を飼育者ありハ友里と云ふハ依り官  
馬兵軍官人等ハ馬を飼育ハ十五ノ月七八分  
ハに不韃地ハ中馬と用い中云

一 雲南江川陝西貴州廣西ハ各省ハ民家ハ  
馬を飼育者多しハ其種友里と云ふ多クハ依  
り官馬兵軍官人等ハ馬を飼育ハ十分ノ内  
四六分ハ不韃地ハ中馬と用い中云



山東山西河南湖廣各省人民所馬  
上領者總令八十家自以各家所領  
官馬兵軍官之人亦以總令八十方寸也  
六方口外雜地より出ゆると用い申す

一 中葉より里馬ハ陝西ハ出ゆると申す仕由雲南  
貴州ハ出ゆると其次ハ仕由廣西ハ出ゆると又  
其次ハ仕由陝西ハ出ゆると申す及申す申す出ゆる  
馬別る仕由寧夏及ハ出ゆるハ力法ハ貴州雜地より  
形大ノ遠クハ雲南貴州より出ゆる馬ハ力法馬  
形奇麗なるハ仕由領したる大なるハ出ゆる中ハ廣

西江川ハ出ゆる馬ハ徳山路ハ遠セ行中ハ馬形小キ  
一 省毎馬初ハ陝西雲南貴州陝西江川ハ

一 省毎馬初ハ陝西雲南貴州陝西江川ハ  
出ゆる仕由中葉ハ出ゆるハ貴州より  
用い申すハ仕由雜地ハ馬ハ仕由陝西ハ  
月寧夏ハ出ゆる馬領し仕由口外雜地ハ  
ハ出ゆる申す

一 南系帶毛ハ相と具ハ仕由考仕由上ハ  
仕由仕由度由ハ出ゆる仕由兵軍官ハ人亦  
仕由仕由是ハ仕由馬ハ出ゆる仕由雜地ハ出ゆる



中華の里より六渡西の山に居るを除くは  
女は如馬の山中なる也

- 一 南京草毛の相と負の最考に中なる馬は  
此れは度由の所なく官馬并軍官の人馬は  
馬より此れは度由の所なく官馬并軍官の女  
軍官の人馬は馬も女馬の多く此れは  
中華の山を由有より出るは此れは  
右の是れを纏るは程を此れは此れは  
此れは纏馬の事も此れは此れは

上通りの形

- 一 西長ク瘦ゆる骨之り
- 一 年ハ少ク為立チル
- 一 眼ハ大キニ目目の中に妙香圓なる也
- 一 首ハまうりゆる鬃の形ニ似中
- 一 胸ハ廣ク法出ニ西は度の方を踏入し
- 一 脊ハ短ク平に也
- 一 蹄ハ大キヤ一と堅く也
- 一 腹ハ肉薄ク平々小汗溝深ク密に也
- 一 後足前足に踏蹴也
- 一 尻骨短く尾長く多し一歩の長也



一 小腕張り筋の長くてもあるも長く筋  
筋のゆくゆ

一 根肩骨廣く平ゆる鹿を廣くゆ

一 筋骨張り末後筋合ゆ

一 馬軍くちハカ活く活柔も汗も出を筋纏

一 骨も肉も筋も癒し不中ゆ

下通りの筋

一 西の程く肉をり骨も不ゆ

一 平の骨く大子にりて癒しゆ

一 眼小く三角やりの妙を肉をゆ

一 首の程く骨く刀のしみのしゆゆ

一 胸の程く骨ゆりおとれ筋も細ゆ

一 脊の骨く一と垂しゆ

一 蹄の小く薄くゆ

一 股の骨くあかり足骨くして中筋をきり

一 合と或の程くして中筋を結ゆ

一 尾骨の長く或の骨く尾骨く短くゆ

一 小腕の長く筋の長おゆ

一 根肩骨く鹿先尖りゆ

一 筋骨のゆりやうにり末後筋も合ゆ



中魚りし形

- 一 西の長〜尻尾〜尻又尾腹〜骨〜
- 一 尾肥〜肉かつ〜
- 一 年小〜尾骨〜尾骨〜尻又尾腹〜骨〜
- 一 眼〜大の尻小〜尻尾〜骨の〜
- 一 肉〜山〜大骨〜
- 一 首〜長〜尻尾〜尻尾〜骨〜
- 一 又力の胸の骨も〜
- 一 狗〜秋〜尻尾〜尻尾〜骨〜
- 一 不之又〜骨〜

- 一 脊〜或〜尻〜
- 一 蹄〜大〜尻尾〜
- 一 尻尾〜骨〜
- 一 中〜骨〜
- 一 肉〜山〜大骨〜
- 一 尾骨〜長〜尻尾〜
- 一 小〜尻尾〜
- 一 根骨〜骨〜



尖のしよ山

一 節骨花後物合肉付の石花又のりあつた山  
燃る馬相の石花等節骨を折るはれり  
余の石の大神をさしあつても不苦の

一 夜中、法囊と不抜馬、日本馬と染るる  
此の石花又のりあつた節骨合肉をさしあつた  
菅正の石花を法囊と不抜馬の石花と  
右の石花後物合肉付の石花と不抜馬の  
石花と兼す山

一 節骨花後物合肉付の石花又のりあつた山

真の石花の石花をさしあつた石花  
馬の石花の石花をさしあつた石花  
月骨の石花の石花をさしあつた石花  
馬の石花の石花をさしあつた石花  
石花の石花の石花をさしあつた石花  
石花の石花の石花をさしあつた石花  
石花の石花の石花をさしあつた石花  
石花の石花の石花をさしあつた石花

一 石花の石花の石花をさしあつた石花  
石花の石花の石花をさしあつた石花  
石花の石花の石花をさしあつた石花  
石花の石花の石花をさしあつた石花  
石花の石花の石花をさしあつた石花  
石花の石花の石花をさしあつた石花  
石花の石花の石花をさしあつた石花  
石花の石花の石花をさしあつた石花



















一 馬の肥るたに去る月一日  
 兼養生に苗陳教六貼飼中の六貼兼  
 二月一日飼中の勿傳を早う一日一貼  
 皆一貼飼中  
 一 苗陳教の方希に死ぬる  
 一 夏に月一日に極肥馬の兼養生に血を  
 帯ぬ瘦るに不中の瘦る肥るたに兼養生  
 消養教六貼飼中の六貼兼六月一日  
 馬飼中のたを早う一日一貼宛一貼  
 飼中の消養教の方希に死ぬる

一 秋に馬の兼養生にたぬ血を  
 此瘦る肥るたに兼養生に理肺教六貼飼  
 中の六貼兼八月一日飼中のたを  
 早う一日一貼宛皆一貼飼中の理肺教  
 方希に死ぬる  
 一 冬に月一日に血を  
 帯ぬ血を不中の但是のたぬ血を丸  
 ゆるぬるに兼養生に苗香教六貼飼中の  
 六貼兼兼八月一日飼中のたを早う  
 一日一貼宛皆一貼飼中の苗香教の方



石の地ありし由

一 秋冬を去たに華北を生み余はゆるり珍し由  
為中を生み六日辛の葉と國中の地は亦大  
為中を生みしして余又の焼く由中の中

右の地は先を劉維先備活言書す

一 上の葉は亦大馬十二月中向比野脈

究計葉烟仁由

一 かの苗は唐玉池にうつて井の中は川雲雨山  
西陲西の京河南山東は七省八砂地又八石  
石多き由は致苗とすゆゆの流つ地裏痛

一 橋一石の中身不す一して石は江南河に  
廣東廣西湖廣福建は西は七省の地は  
河の第八切石と云ゆ身うる苗中不中ゆるも  
血痛中多きゆゆるなる苗中一の知らすしり  
ゆをあるゆ身うる苗中ゆる交るゆゆる  
りなる苗中一の不中たゆゆのゆゆる血  
いしゆゆたゆにすゆゆのゆゆるゆゆるゆ  
ゆゆる結ゆゆゆる痛ゆゆゆゆるゆゆる  
ゆゆるなる苗中一の後ゆゆゆゆ

一 家精生るるニ三月に流ゆゆキンプりは切なる由







初は湯を鼻筋ちて用中いゝるを強は去右に  
多めて馬蹄口の中を切危下と極極の  
危下と持たのこを法藁と振り千金堂に  
よと強く切割肉のた極極法藁の肉はこ  
極極法藁の皮のちみ合ふ極極を極極  
夾板の中おるをふ焼くのも当て汲之  
く水も汲血を洗ひ胡麻の油に塩が加切  
口小入し強中ゆるを建らうらう細りと解静に  
口をきりて麻の葉を毎方三遍宛静に  
口の中二十一日頃立止るを金中の右火強く

方より左の中強く方より火強く強方と極極  
たゆと丸白筋と二寸切取たゆと包ひたゆと  
血筋と方汲之く水も洗ひ極極と極極法  
藁の中へ切りて強血を強洗ひ胡麻の油  
あはに塩が加切口と強中の強後の強方火強  
く強方と口極極を強

一馬法藁と極極後と只鞍の肌を中と背中に  
きせ強中の水を飲之る中も同料より多  
あや同中の強ゆる七りて同料平生も強  
か左強ゆる後二十日同強は強は強と強



中其のこゝの温後くある葉を多取  
ると寝せ不中の毎の交引とを強ゆる  
七日の全掃をす不中とて是んよそ  
不中

一 法叢と扱ゆるのハ馬治をくすの法叢を  
扱静が扱ゆる扱不中の馬小荷強を同  
扱とす其ある法叢と扱ゆるの治氣を  
静した地を比社の備を其能とす人の  
て友端治ひ合不扱の具又解一而多條  
能いすも友端治合不扱の

- 一 二馬の付法叢と扱ゆる
- 一 法叢と扱ゆるも名在年殺の扱ひ其の  
肝合の弱く扱ゆる其のた又馬の扱不中の
- 一 法叢と扱ゆる心定ゆるハ馬を愛り  
不中教有法叢ゆるも又の教り治止をゆるも  
不心の能ゆる其の細合の具を条入中其の  
る要ゆるゆるも法叢と扱ゆるを強を  
或の教り治止ゆる格ゆるとて打くる  
公愛りゆる其の治不中の
- 一 法叢と扱ゆる不強とて同よるある



つる中品

一 馬を以て用ふる事及馬の又何れも馬に依る事の  
 十分の内九分は法書と扱中品は小荷物と内  
 六分は法書と扱中品は女馬多用の中品  
 一 馬を以て用ふる事及馬の又何れも馬に依る事の  
 十分の内九分は法書と扱中品は小荷物と内  
 六分は法書と扱中品は女馬多用の中品  
 一 馬を以て用ふる事及馬の又何れも馬に依る事の  
 十分の内九分は法書と扱中品は小荷物と内  
 六分は法書と扱中品は女馬多用の中品  
 一 馬を以て用ふる事及馬の又何れも馬に依る事の  
 十分の内九分は法書と扱中品は小荷物と内  
 六分は法書と扱中品は女馬多用の中品

一 馬を以て用ふる事及馬の又何れも馬に依る事の  
 十分の内九分は法書と扱中品は小荷物と内  
 六分は法書と扱中品は女馬多用の中品  
 一 馬を以て用ふる事及馬の又何れも馬に依る事の  
 十分の内九分は法書と扱中品は小荷物と内  
 六分は法書と扱中品は女馬多用の中品  
 一 馬を以て用ふる事及馬の又何れも馬に依る事の  
 十分の内九分は法書と扱中品は小荷物と内  
 六分は法書と扱中品は女馬多用の中品  
 一 馬を以て用ふる事及馬の又何れも馬に依る事の  
 十分の内九分は法書と扱中品は小荷物と内  
 六分は法書と扱中品は女馬多用の中品



一 中華の言の二年と刻名を身と刻らるるの  
下と付いたの汁とる所は

一 兼書を生きたるの末と替換る血と五

中は丸目物を撰ひ天氣色帯細平繩を平

首とくくりあめ汁とくく血と帯の血の

色と色と帯とあめ汁とくく血と帯の血の

小繩と解血と帯の血と帯の血と帯の血と

解血の中と

慶應七五

DOHIN 坊



